

学習辞典における日本語とフランス語の対応の透明度について考える
【原因・理由－結果・帰結】を含む日仏文の観察
－ 【V+から...する/V+ので...する】と 【N+で...する】の場合を例に－¹

グルノーブル第三大学 牛山 和子

キーワード：二言語間の対応の透明度 (語彙レベル・節レベル・表現レベル・構文レベル)

1. はじめに

CERRA-LEJ (ローヌ-アルプ日本語学・日本語教育研究会)は国際交流基金編集の日英学習辞典『*THE JAPAN FOUNDATION BASIC JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY* 基礎日本語学習辞典』(初版 1986, 凡人社) (以下『基礎日本語学習辞典』と略す) の仏語版作成に向け翻訳作業を開始したが、その準備段階で、学習者にとって真に役に立つ辞書とはどんなものかという問いにぶつかった。その中の問いかけの一つに日仏文における語彙レベル、節レベル、あるいは表現レベルにおける“対応の透明度”をどの程度に設定したらよいかということがある。

文学作品などの翻訳ならばこうした問いはあまり重要ではないかもしれない。しかし、初級学習者を主対象とした学習辞典としての役割を考えると、どのように、あるいはどの程度の“対応度”で訳文を作成するかを決めておくことは大切なポイントだと思われる。

さて、日本語文(起点言語)をフランス語文(翻訳言語)²で表した場合の日仏の対応度を考えてみると、大きく分けて次の四つの場合が考えられるかと思う。

- ① 起点言語と翻訳言語の対応度が高い場合 (特に語彙レベルや構文レベルにおいて。例: この本はおもしろいです ≈ *Ce livre est intéressant*)、
- ② 対応する語彙や表現、又は構文が複数ある場合、
- ③ 対応させることはできるが不自然な訳になる場合、そして
- ④ 対応がない場合³である。

①の場合を除いて、学習辞典としてどのような訳文を与えたらいいだろうか⁴。

¹ セミナー当日のタイトルは『既存の辞書における翻訳例の観察: «原因・理由－結果・帰結» を含む表現 – 【V-から/ーので...】と 【N+で】の場合を中心にー』であったが、論考内容をより明確に示す為、今回このように手直しさせていただいた。

² 二言語間の翻訳に際して、本稿では翻訳が行われる方向を示す際、原文を「起点言語」、訳文を「翻訳言語」と表示する。

³ 例えば語彙に関して、島守玲子氏は、“お風呂の蓋”という語を例としてあげている。“お風呂の蓋”をフランス語で説明することはむろんでできるが“お風呂の蓋”という物、そして語はフランス人の語彙の中には通常存在しないものである。

⁴ 翻訳作業の母体である『*The Japan foundation Basic Japanese-English Dictionary* 基礎日本語学習辞典』には英語訳があるが、CERRA-LEJが行う仏語版辞典は必ずしもこの英文の仏訳ではなく

これに答えるヒントを得る為、ひとまず『基礎日本語学習辞典』から離れ、既存の和仏辞典、仏和辞典の観察を行いたい。これによりフランス語習得の為の辞書がどのような日仏、または仏日の対応文を学習者に与えているかを確認し、この観察をもとに日本語学習者の為のよりよい和仏学習辞典づくりを考えていきたいと思う。

観察のポイントを絞るため、今回は【原因・理由—結果・帰結】表現、特に【V(動詞)+から...する】、【V+ので...する】と【N(名詞)+で...する】を含む文を中心に既存の辞書二冊(後述)を観察していく。【原因—結果】表現を観察対象としたのは、

- ① 翻訳対象としている『基礎日本語学習辞典』の中に因果関係を表す文がかなり多く見られるが、それに対してしばしば複数の訳が可能であること、また、
- ② 因果関係を表す文は複文であることが多いので、節レベルの構文対応を始め、翻訳上のいろいろな問題を考えるよい材料になると思われるからである。

例文観察の為に、次の二つの辞書を参照した。

- ① *DICTIONNAIRE JAPONAIS-FRANÇAIS CONCORDE* (1990 白水社)
(以下 Concorde 和仏辞典と略す)
- ② *DICTIONNAIRE FRANÇAIS-JAPONAIS ROYAL* (1985 旺文社)⁵ (以下 Royal 仏和辞典と略す)

『Concorde 和仏辞典』に関しては『基礎日本語学習辞典』の pp.600-702 にある見出し語 (p.600 「列車」の項から p.702 の「尊敬」の項まで) に対応する語彙項目から、『Royal 仏和辞典』に関しては <R> の項目 pp.1545-1674 から、それぞれ【原因—結果】を含む文を取り出して観察した。尚、CERRA-LEJ が今回 翻訳を手がける学習辞典は『基礎日本語学習辞典』(和英版)を母体とした和仏学習辞典(和文仏訳の作業)ではあるが、仏和辞典(仏文和訳の作業)も参照することで学習辞典における二言語間の対応の仕方がより広く観察されると考え、和仏と仏和、両方向からの観察をすることにした。

観察のポイントは【原因—結果】表現を含む日本語文とフランス語文の対応の仕方と対応の度合いである。和仏の場合は起点言語が日本語、仏和の場合は起点言語がフランス語であるが、それぞれの訳文が起点言語に対してどのような対応をしているか、以下の2点を中心に見ていく。

- ① 節 (proposition) レベルにおける因果関係の流れの対応：
【原因・理由先行】か【結果・帰結先行】か
- ② 語彙、表現レベルの対応：対応の透明度はどの程度見られるか

この観察結果を踏まえ、学習者にとって本当に役に立つ学習辞典、という観点から二言語間の“対応の透明度”をどこに設定するか(構文、語彙、表現など)について考えてみたい。

(貴重な資料として十分参考にはするが)、あくまでも日本語からフランス語への翻訳をするという方法を取る。

⁵尚、辞書の翻訳について、翻訳者のコンセプトに変化があるかどうかを知る上で、それぞれの辞書の最新版も機会を見て参照したいと思う。

2. 和仏辞典、仏和辞典に見られる【原因－結果】表現を含む文の日仏対応

観察対象とした二つの辞書から【原因－結果】表現を含む文を収集してみると、さまざまな表現形式があることが確認される(付属資料参照)が、今回はその中から特に、【V(動詞)+から... する】、【V+ので...する】そして【N(名詞)+で...する】を観察してみたいと思う。

2.1 【V+から... する】と【V+ので...する】

まず、【V+から... する】と【V+ので...する】の日仏文の対応を見ていくが、これを表にすると、以下ようになる。表中の(C)は『Concorde 和仏辞典』からの抜粋、(R)は『Royal 仏和辞典』からの抜粋であることを示す。尚、丸囲み番号の前にある(o) または (x) は、原因－結果の提出順が日仏文で対応している(o)、対応していない(x) ということを示している。又、矢印は起点言語から訳文へ方向を示している。フランス語文内の下線部分は、日本語の【V+から...する】と【V+ので...する】に相当すると考えられる部分である。

	日本語	フランス語
【V+から... する】	原因・理由先行	原因・理由先行
	① <u>この本は二冊持っているから</u> 一冊君にあげます。	o ① <u>Comme j'ai deux exemplaires de ce livre</u> , je vais vous en donner un.(C)
	② <u>この問題は去年の試験に出たから</u> 今年は出ないだろう。	o ② <u>Comme cette question est sortie à l'examen de l'an dernier</u> , elle ne reviendra probablement pas cette année. (C)
	③ <u>彼女は勉強しようとしないから</u> 少し締めてやろう。	o ③ <u>Elle ne veut pas travailler</u> , je vais lui serrer la vis. (C)
④ <u>ワインが足りないから</u> 買い足さなければならないだろう。	o ④ <u>On n'a pas assez de vin</u> , il faudra en racheter. (R)	
【V+ので... する】	原因・理由先行	原因・理由先行
	① <u>生野菜がないので</u> 缶詰にしなければならなかった。	o ① <u>Faute de légumes frais</u> , il fallait se rabattre sur les conserves. (R)
	② <u>彼がいてくれるので</u> 私はとてもこころ強い。	o ② <u>Sa présence me réconforte</u> beaucoup. (R)
	③ <u>彼と一緒にいてくれるので</u> 気が休まる。	o ③ <u>Sa compagnie</u> me repose. (R)
④ <u>私は間違っただけで</u> 言い直した。	o ④ <u>Comme je me suis trompé</u> , je me suis repris. (R)	

(前ページより続く) 【V+ので... する】	⑤ <u>彼女が倒れそうになった</u> <u>ので私は腕を支えてあげた。</u>	o ⑤ Elle allait tomber, je l'ai retenu par le bras. (R)
(前ページより続く)		

表 1 【V+から...(する)】 / 【V+ので...(する)】を含む
日本語文とそれに対応するフランス語文の比較

観察ポイントの第一点目である節レベルの対応、つまり【原因・理由】先行か【結果・帰結】先行かを見てみると、フランス語も日本語も表中の十例すべてが【原因・理由先行】という《因果関係の流れ》を持っており、節レベルの対応度が高いと言える。

ただ、【V+ので...する】に関しては、原因・理由を表す部分の語彙的、構文的手段がフランス語と日本語では異なっている例が見られる(【V+ので...する】の項②、③参照)。つまり、フランス語が名詞の形で理由を表現しているのに対して、日本語の対応部分は動詞表現になっていること⁶、さらに、これは観察ポイントの第二点目に関わってくる問題だが、日本語とフランス語との間で“意味内容の補充”、“意味のかみ砕き”⁷とも言える作業が行われている場合が観察される。

例えば、【V+ので...する】の欄の②と③の【V+てくれる】という表現だが、この【V+てくれる】がフランス語文では明確には言語化されていない。この例文は『Royal 和仏辞典』から収集したのでフランス語が起点言語であるが、「彼がいてくれるので私はとても心強い」という日本語をフランス語に訳す場合【V+てくれる】の持つニュアンスを学習者がはっきり意識できる訳をするべきかどうかということを考えてみたい。

つまり日本語学習者の為の和仏学習辞典において、日本語の「彼がいてくれるので私はとても心強い」という日本語文をどんなフランス語文で提示したら学習者にとってより役に立つのか、ということである。これは勿論、辞書を使う学習者のレベルにも関係してくる問題であるが、フランス語としてやや不自然であってもこの表現のもつニュアンスを学習者が意識的に感じられるような語句をフランス語文に補充すべきか否か、ということである⁸。

観察の二つ目のポイント、即ち語彙レベル、表現レベルの対応については、限られたコーパス内ではあるが、日仏文間の対応度はかなり高いと言えるかと思う。ただ、もう少し細かく二言語間の対応を見ていくと、日仏間で対応しない言語現象が観察される。例えばフランス語文の中で使われている *virgule* (「～から...(する)」③、④及び「～ので

⁶ 日仏翻訳の品詞対応については、鷲見 洋一『翻訳仏文法 上』などを参照されたい。

⁷ «意味の補足・補充」、«意味のかみ砕き」という作業に関して、ここでは次のような二段階の翻訳作業がなされている。まず、フランス語文内の名詞による原因・理由表現を日本語にする際、日本語が好む動詞、形容詞による原因・理由表現に変える。次に話し手・書き手の心情を表現するアスペクト(ここでは感謝の意を表す【V+てくれる】)を選んで“日本語らしい文”を作る。

⁸ この点に関しては、セミナー参加者の方々から、「特に訳す必要はないのでは」、という意見と「フランス語として訳すことは可能ではある」(sa présence *active*)、という意見が聞かれた。

...(する)」⑤参照)が“理由”を示す指標としての役割を果たしているのに対して、日本語の「、」(句点)にはこのような機能がない。また、言語による統語上の規則の違いが生み出す“非対応”も観察される。ここでは日本語では必要とされない(表出されない)タイプの代名詞、フランス語の“en”が観察される(「～から...(する)」①参照)。さらに、先にも触れたように、二言語間で意味の対応をはかるために語の補足や“意味のかみくだき”がされる例も観察できる(「～から...(する)」③参照)が、これらの現象に関してはまた別の機会に詳しく見ていきたい。

2.2 【N+で...する】

次に【N(名詞)+で...する】の場合を見てみたい。表1同様に(C)は『Concorde 和仏辞典』からの抜粋、(R)は『Royal 仏和辞典』からの抜粋である。

	日本語		フランス語	
	原因・理由先行		結果・帰結先行	
【N + で... する】	① <u>せっかくの日曜日</u> も雨で残念だ。	→	x ① C'est dimanche aujourd'hui, mais quel dommage, <u>il pleut</u> . (C)	
	② 遠足は <u>雨</u> で延期された。	←	x ② L'excursion a été remise <u>en raison de la pluie</u> . (R)	
	③ 彼は <u>健康上の理由</u> で辞職を願い出た。	←	x ③ Il a demandé sa démission <u>pour la raison de santé</u> . (R)	
	④ <u>額の傷痕</u> で犯人を見分けられるだろう。	←	x ④ On reconnaîtra le criminel <u>à la cicatrice qu'il a au front</u> . (R)	
	⑤ 彼の顔が <u>喜び</u> でばら色になる。	←	x ⑤ Son visage rosit <u>de plaisir</u> . (R)	
	⑥ 彼女は <u>寒さ</u> で頬が赤い。	←	x ⑥ Elle a les joues rouges <u>de froid</u> . (R)	
	⑦ 彼は <u>怒り/恥ずかしさ</u> で赤くなった。	←	x ⑦ Il est devenu rouge <u>de colère / honte</u> . (R)	
		原因・理由先行		原因・理由先行
	① <u>雨</u> で急に涼しくなった。	←	o ① <u>La pluie</u> a entraîné un brusque rafraîchissement de la température. (R)	
	② <u>テニス</u> で私たちは親しくなった。	←	o ② <u>Le tennis</u> nous a rapproché. (R)	
	③ 私は <u>あなたの言葉</u> でたいへん励まされました。	←	o ③ <u>Vos paroles</u> m'ont été d'un grand réconfort. (R)	
				o ④ <u>Son refus</u> a refroidi mon amitié

(前ページより 続く) 【N + で... する】	④ <u>彼女の拒絶</u> で彼女に 対する友情がさめた。	← pour elle. (R)
	⑤ <u>風</u> でマストが折れた。	← o ⑤ <u>Le vent</u> a rompu le mât. (R)
	⑥ <u>雹</u> で小麦がすっかりだめ になった。	← o ⑥ <u>La grêle</u> a ruiné le blé. (R)

表 2 【N + で...する】を含む日本語文とそれに対応するフランス語文の比較

観察ポイントの第一点目の節レベルの対応、つまり【原因・理由】先行か【結果・帰結】先行かについては、日本語がすべての例で(起点言語の場合も翻訳言語の場合も)【原因・理由】先行型をとっているのに対し、フランス語では【原因・理由】先行、【結果・帰結】先行の両方が可能であるということが確認される。これはむしろ標準的な書き言葉における各言語の構文上の自由度の差による違いであるが、日本語の【原因・理由】表現のひとつである【N(名詞)+で...する】をフランス語に訳す際は、対応するフランス語に二つの構文バリエーションがあるということを再認識する必要がある。

観察の第二点目の語彙・表現の対応に関しては、資料中の例文については、かなり対応関係が高いと言えよう。ただ例えばフランス語の【原因・理由先行】の中の最初の例文を見てみると、フランス語の名詞構文 “un brusque rafraîchissement de la température” (気温の急な低下) に対応する日本語は『Royal 仏和辞典』では“急に涼しく(なった)”となっており、語彙上の対応以上に意味上の対応やその言語としての自然さが考慮されていることがわかる。日本語とフランス語を対応させる際には、こうした“意味のかみ砕き”、“補充⁹や省略”、更には品詞転換といった作業が和仏辞典でも仏和辞典でも行われていることが確認された。

3. 学習辞典の「対応の透明度」のために：“二段階翻訳”

これまで「原因・理由」表現、【V+から...する】、【V+ので...する】、【N+で...する】を含む例文を元に既存の和仏辞典、仏和辞典がどのような対応を示しているかを①節レベルの対応(【原因・理由先行】か【結果・帰結先行】か)と②語彙レベル、表現レベル及び構文レベルの対応に分けて見てきたが、CERRA-LEJ が実際に和仏翻訳作業を行うベースとなる『基礎日本語学習辞典』(和英版)(初版 1986)は、日本語から英語への翻訳をどのような方針で行っているだろうか。编者によると、初級者を主対象としたこの辞典は、翻訳に際し、次のような配慮をしているという。

⁹参考資料(本稿末の資料参照)中の「雪の為、ダイヤが大幅に乱れた」という日本語文(起点言語)をコンコルド和仏辞典は“Les chutes de neige ont grandement perturbé les services de transport ferroviaire.”と訳している。ここでは起点言語の日本語にはない語彙がいくつか加えられている。「雪のため」は“les chutes de neige”と訳し、「ダイヤ」は“les services de transport ferroviaire”というように訳して学習者の理解を助けている。一般的に言って、フランス語の名詞は凝縮性が高く、日本語に訳す時にはその凝縮の中にある意味を補って訳すことが必要だといわれる。しかし、上の例のように、フランス語の方がより具体的な描写をすることもある。これは単発的な例なのか、あるいは似たような例が相当数あるのか、興味のあるところである。

「翻訳はできるだけ日本語の原文に近づけるように努めましたが、英文の表現として不自然になる場合には、通常、文字通りの訳文も別に記しました。」¹⁰

さらに日本語－英語間で文構成、品詞などが変わる場合があるとし、その際には 対応個所を字体を変えて示す方法を取り、言い換え可能な語がある場合は二重鉤括弧で示すとしている¹¹。今回観察した同辞典 p600～p.702 中の【原因・理由】－【結果・帰結】表現を含む文では以下のような例が観察される。囲み語彙(辞書中では太字で表示されている)は見出し語とその英訳(英語における対応)を示している。(枠囲み、下線とも本稿筆者)

日本語 (起点言語)	英語 (翻訳言語)
来週は日曜と 祭日 が続くから、旅行する人が多いでしょう。(p.615)	Monday is <u>a holiday</u> (more literally, <u>a holiday comes after Sunday</u>) next week so probably many people will be traveling over the three-day weekend.
今日は用事があるので、お 先 に失礼します。(p.619)	As I have an errand to do [<u>other business to attend to</u>], I will have to take my leave <u>before</u> [you ¹²].

こうした、いわば “二段階翻訳” は初級学習者を主対象とした学習辞典という性質を考えた時、必要な作業ではないかと思う。仏語版学習辞典においてもこのような方式が適宜必要であろうと思うが、それに加えて、今回の観察で見られたような日本語とフランス語の構文パターンの違いなどについても説明することができたら学習者の役に立つのではないだろうか。

4. まとめにかえて

個々の言語にはそれぞれが好む語彙、文の流れ、表現などがあり、それを別の言語に忠実に置き換えようとする、不自然なものになってしまうことが多い。言うまでもなく、日本語に対応するフランス語はそれ自体として自然であることが望ましい。ただ、こうしたフランス語としての自然さを十分に保ちつつ、日本語 初級学習者の理解を助ける為最終的にどんな訳を提示したらいいのか、これからの翻訳作業の中で会のメンバーと共に更に検討を重ねていきたい。

◆ 主要参考文献

THE JAPAN FOUNDATION BASIC JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY 基礎

日本語学習辞典 (1986, 凡人社)

DICTIONNAIRE JAPONAIS-FRANÇAIS CONCORDE (1990 白水社)

DICTIONNAIRE FRANÇAIS –JAPONAIS ROYAL (1985 旺文社)

鷺見 洋一 『翻訳仏文法(上)』 ([1985]1995)バベル出版

春木 仁孝 「フランス語の発想 日本語の発想」、『ふらんす』 2001 年四月号～2002 年三月号、白水社

¹⁰ *THE JAPAN FOUNDATION BASIC JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY* 基礎日本語学習辞典 ([1986], 1987 第二版), 凡人社 p. xvi.

¹¹ 前掲書、同ページ。

¹² 『基礎日本語学習辞典』では、日本語では言語化されていないが、英語の表現として必要なものを鉤括弧に入れて表示している。

補足資料 (Annexe) : 【原因・理由－結果・帰結】表現のいろいろ (抜粋)

本稿、本文中では、日本語の【V+から...する】、【V+ので...する】、【N+で...する】の三つの原因・理由表現形式を中心に日本語、フランス語の対応を観察したが、この他にもいろいろな原因・理由表現形式があるので、参考資料として、下記に示しておきたい。下記の表を観察していただくことで、日本語とフランス語の対応（翻訳）において、本文中に述べたような様々な作業が行なわれていることがよりよく理解していただけるのではないかと思います。

出典：(C) = 『Concorde 和仏辞典』 (R) = 『Royal 仏和辞典』 (K) = 『基礎日本語学習辞典』
各フランス語文の前の (o) または (x) は、原因－結果の提出順が日仏文で対応している (o)、対応していない (x) ということを示し、矢印は起点言語から翻訳言語へ方向を示している。尚、表内の下線部分は【原因－結果】表現の日仏対応部を示したものである。

【原因・理由】 表現形式	日本語	フランス語
N+で ¹³ V-こと+で	<p>雨で急に涼しくなった。 ←</p> <p>彼の顔が喜びでばら色になる。 ←</p> <p>私の命を救ってくれたことで ← その医者にはたいへん感謝している。</p>	<p>o <u>La pluie a entraîné un brusque rafraîchissement de la température.</u> (R)</p> <p>x Son visage rougit <u>de plaisir.</u> (R)</p> <p>x J'éprouve beaucoup de reconnaissances envers ce <u>médecin pour m'avoir sauvé.</u> (R)</p>
N/V+から	<p><u>この本は二冊持っているから</u>、 → 一冊君にあげます。</p> <p><u>この問題は去年の試験に出たから</u> → 今年はないだろう。</p> <p><u>ワインが足りないから</u> ← 買い足さなければならないだろう。</p> <p>今日は<u>山田先生がお休みです</u> → から<u>臨時に私が</u>おしえます。</p> <p><u>平仮名は読めませんから</u> → ローマ字で書いてください。</p>	<p>o <u>Comme j'ai deux exemplaires de ce livre,</u> je vais vous en donner un. (C)</p> <p>o <u>Comme cette question est sortie à l'examen de l'an dernier,</u> elle ne reviendra probablement pas cette année. (C)</p> <p>o <u>On n'a pas assez de vin,</u> il faudra en racheter. (R)</p> <p>x I will be your substitute teacher today <u>as professor Yamada is absent.</u> (K)</p> <p>o <u>[I] can't read hiragana so please write it in roman letters.</u> (K)</p>

¹³ 「戦争で多くの命が失われた」(出典：Concorde 和仏辞典)のように、解釈が複数可能なものもある。Concorde 和仏辞典では、Beaucoup de vies ont été perdues lors de la guerre. という訳を提示しているが、A cause de la guerre / en raison de la guerre ... という訳も可能かと思う。これは“戦争”という言葉が内包する意味や、それが引き起こす必然的な事態を想起させる為かとも思われる。それを訳出するか否かで訳が変わってくるのではないだろうか。“JRのストライキで多くの電車が止まった”なども同様かと思われる。

N/V + (な)ので	<p>生野菜がないので、缶詰にしなければならなかった。 ←</p> <p>彼女が倒れそうになったので私は腕をささえてあげた。 ←</p> <p>彼がいてくれるので私はとてもこころ強い。 ←</p> <p>私は間違ったので言い直した。 ←</p> <p>旅行に出かけるので、二、三日家を留守にします。 →</p> <p>3月21日は祭日なので、学校は休みです。 →</p>	<p>o <u>Faute de légumes frais</u> , il fallait se rabattre sur les conserves. (R)</p> <p>o <u>Elle allait tomber</u> , je l'ai retenu par le bras. (R)</p> <p>o <u>Sa présence</u> me reconforte beaucoup. (R)</p> <p>o <u>Comme je me suis trompé</u> , je me suis repris. (R)</p> <p>x The house will be empty for two or three days <u>because [I] am going away on a trip</u>. (K)</p> <p>x There's no school <u>on March 21 as it's a national holiday</u>. (K)</p>
N/V+(の)ため ために	<p>雪のため、ダイヤが大幅に乱れた。(C) →</p> <p>この色のために地の色が死んでしまう。(C) →</p> <p>きつい仕事を重ねたため、彼(女)の手の皮は固くなった。 ←</p> <p>彼はさっぱりするためにシャワーを浴びる。 ←</p>	<p>o <u>Les chutes de neige</u> ont grandement perturbé les services de transport ferroviaire.</p> <p>o <u>Cette couleur tue les autres</u>.</p> <p>x <u>Ses mains se sont racornies après tant de durs travaux</u>. (R)</p> <p>x <u>Il prend une douche pour se rafraîchir</u>. (R)</p>
N/V+し	<p>疲れているんだし、早く寝なさい。 →</p>	<p>o <u>Puisque tu es fatigué</u>, va au lit tout de suite. (C)</p>
V+て/で	<p>彼は不義理をしてだんだん世間を狭くしている。 →</p>	<p>o <u>Il se conduit mal et on l'abandonne de plus en plus</u>. (C)</p>
A+で,くて	<p>天気がよくて幸せだった。 →</p> <p>これは辛すぎて喉や舌に強い刺激を与える。 →</p>	<p>x Nous avons eu la chance <u>d'avoir beau temps</u>. (C)</p> <p>o <u>C'est trop piquant et cela enflamme la langue et la gorge</u>. (C)</p>

Comment fixer le degré de transparence entre le japonais et le français pour un dictionnaire d'apprentissage ?

Observation des énoncés en japonais et en français comprenant des expressions

【cause • raison - effet • conséquence】

– le cas de **【V + kara ... suru / V+node ... suru】** et **【N + de...suru】** –

1) Introduction

Faire la traduction d'un dictionnaire bilingue « pour l'apprenant » (l'apprenant francophone en particulier, ici) nous demande divers types de réflexions telles que nous évoquons dans l'ensemble de nos exposés d'aujourd'hui. Dans ce bref exposé, nous voulons montrer comment le dictionnaire bilingue effectue la traduction. Il nous semble important de savoir une sorte de « convention générale » en traduction comme une référence de travail. Pour ce but, nous avons observé un certain nombre d'énoncés comprenant le sens de « cause – effet ».

2) Pourquoi observer l'expression de « cause – effet (conséquence) » ?

① Nous avons trouvé un certain nombre d'énoncés « cause – effet/conséquence » dans le dictionnaire à traduire : *OXFORD Japanese-English Dictionary*.

En outre, nous avons remarqué que plusieurs traductions françaises sont souvent possibles pour un énoncé en japonais.

② Observer les expressions de « cause – effet /conséquence », qui se présentent souvent sous forme de phrase complexe, nous semble utile pour réfléchir de divers points importants lors de la traduction japonais – français.

3) Référence

Pour extraire des énoncés « cause –effet/ conséquence », nous avons utilisé les deux dictionnaires suivants¹⁴ :

① *Dictionnaire japonais – français CONCORDE* (1990 Tokyo, Hakuishu)

② *Dictionnaire français – japonais ROYAL* (1985 Tokyo, Ôbunsha)

4) Points à observer

(cf. Document : Extrait des deux dictionnaires : expressions « cause – effet / conséquence »)

① Observation sur l'ordre syntaxique : cause d'abord ou effet / conséquence d'abord ?

② Observation sur le degré d'équivalence (mots, expressions)

5) Conclusion

Equivalence ou non-équivalence entre le japonais et le français

6) Discussion

Quel « degré d'équivalence » serait-il utile pour les apprenants (syntaxe, mots, expressions, etc.) ?

¹⁴ Bien que notre travail concerne la traduction <japonais-français>, il nous paraît intéressant d'observer ces deux types de dictionnaires. Par ailleurs, nous pensons à observer la dernière version de chacun de ces dictionnaires afin de voir des changements éventuels dans la traduction.